

インターンシップ(学外実習)に関する報告書

平成 27 年度

沼津工業高等専門学校

目次

1.	インターンシップ参加者と公募数の推移	3
2.	平成 27 年度インターンシップ打ち合わせ会	4
3.	インターンシップ事前研修	6
4.	インターンシップ受入機関からのアンケート集計結果	7
5.	記述式質問 7, 8, 9 のまとめ	9
6.	インターンシップ参加学生からのアンケート集計結果	12
7.	インターンシップの受入期間および実施時期	15
8.	3 年生対象のインターンシップ説明会	16
9.	学生からの意見・感想	18
10.	インターンシップの総括	20
付録 1.	平成 28 年度インターンシップスケジュール (予定)	22
付録 2.	学外実習生学生心得	23

1. インターンシップ参加者と公募数の推移

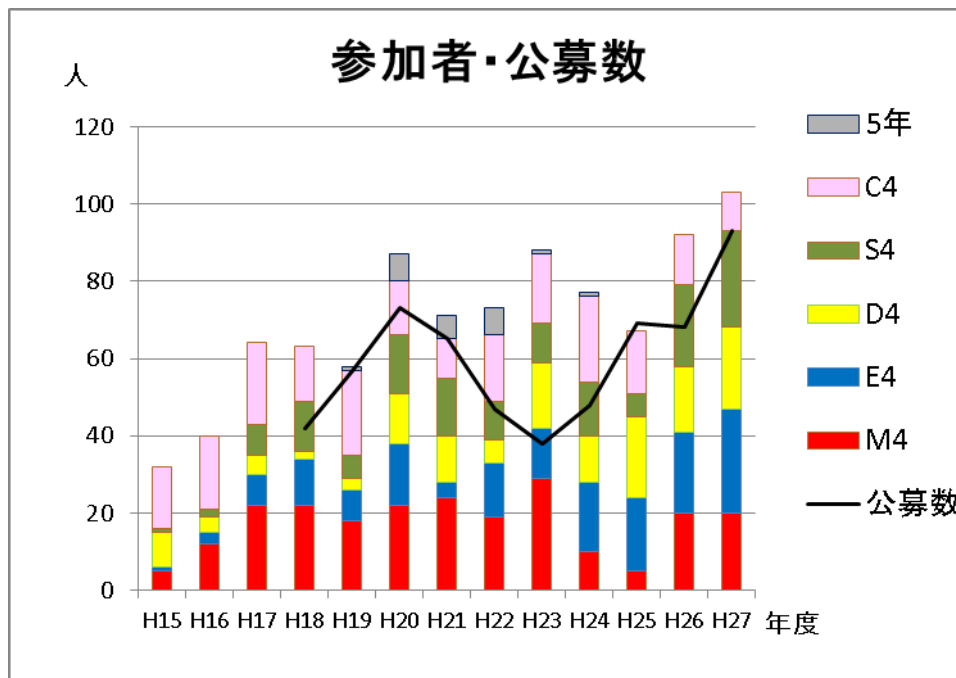


図1 インターンシップ参加者の推移

図1に、平成15年度から13年間にわたり、沼津高専からインターンシップに参加した学生数および、平成18年度以降の公募数の推移を示す。M、E、D、S、Cはそれぞれ、機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、制御情報工学科、物質工学科、その後の数字は学年を意味する。5年生は参加者が少ないので、5学科をまとめた。公募数は、縦軸の人数を件数に読み換える。

参加学生の推移の、主な特徴を以下にまとめる。

1. 今年度、参加人数が100人を超えた。すなわち、二人に一人がインターンシップに参加した事になる。これは、担任教員のインターンシップに対する意識の高さが、その主な要因の一つである。また、学生課の協力を得て学内に整備されたオンライン情報が、ここ数年非常に充実してきており、学生や教員が、迅速に詳細な情報を入手行えるようになったのも大きな要因であると考えられる。
2. 会社からの公募数が急増した。その要因の一つとして、景気が回復傾向にある事が考えられる。しかしそれ以上に、今年度の、就職活動解禁日の後ろ倒しに伴う学生や企業の混乱から、企業の確実な人材確保の手段としてインターンシップがなされたとも受け取れる。受入機関よりいただいたアンケートをもとに、そのあたりの分析が必要と思われる。

2. 平成 27 年度インターンシップ打ち合わせ会

平成 27 年度の初め（平成 27 年 4 月 2 日）に、インターンシップに参加する学生の大半を占める第 4 学年の担任教員を対象として、インターンシップ打合せを実施した。以下にその内容を示す。なお Moodle とは、無料の e-Learning プラットフォームであり、学生や教員が情報共有のために活用している。また、丸印は重要項目を表す。

[1] Moodle のコース「インターンシップ」におけるインターンシップ情報

※ 学生課が管理・作成

- (0) 更新情報
- (1) 学生課からの学生へのメッセージ
- (2) 学校公募 募集企業：学生が希望した場合は電子メールで学生課まで連絡（先着順）。その後、学内締切までに必要書類（履歴書・学外実習推薦書等）を作成して担任が提出する。
担任が不在の場合は代理の教員でも可。
学内〆切を、企業が提示する〆切よりかなり前に設定しているのは、企業の〆切前に定員が埋まる可能性があるため。
- (3) 過去の学校公募
- (4) 実施状況
- (5) 応募方法：「インターンシップ応募までのフロー図」参照。
- (6) 関連書類：ダウンロード可
- (7) 勉強部屋：参加学生に必ず実施させる（特にマナーについて）。学習状況を担任が確認する。
- (8) 先輩の声：履歴書の作成、学科別の報告会資料、体験談
- (9) 説明会資料（2015/01/21 インターンシップ説明会）
- (10) 保険関係：学生は全員加入済み。企業から付保証明書の提出の要請があった場合はプリントアウトし、必要書類と合わせて提出。
- (11) インターンシップ学生アンケート
- (12) 報告書：過去 9 年分
- (13) 学科応募 進行状況連絡掲示板：受入企業に最初に連絡を取った教員が学校の窓口となる。同じ企業への他学科からの希望は、その教員を通じて企業へ受入れ可否などの連絡を取る。
- (14) 受入先への企業訪問関係
- (15) 視察の報告：次年度以降への申し送り事項として利用。
- (16) 企業アンケート

[2] 「平成 26 年度インターンシップに関する報告書」中の、改善点等確認

※ 高専ホームページトップ → 企業の皆様 → インターンシップ に、報告書掲載済

- (1) 教員の、学生をインターンシップに送り出そうとする意識を高く持つ。
- (2) Web エントリーでの受付けにおいては、送信前に教員が記載内容を確認する。
- (3) 受け身ではなく、自ら考え行動するよう、学生に指導をお願いする。
- (4) 受入企業は、学生から質問があつて当然との認識である。学生に、積極的に質問するよう指導をお願いする。
- (5) 受け身では駄目であり、「何をしていただけるか？」ではなく「何をしたいか？」が重要である。
- (6) 「弊社への入社を希望している方に参加して欲しい」と、事後のアンケートに記載している企業がある。
- (7) 事後のアンケートを、平成 21 年度から 6 年分を集計したところ、複数年度に渡って同一のコメント（要望）を記載している企業があるので、その企業へ再び参加する際は、その内容を必ず確認する。
- (8) 事前に学生に、報告書の書き方やプレゼンの仕方、マナーを指導する。
- (9) 春休み中に、インターンシップの行先を検討するよう学生に伝えてあるので、年度開始と同時に、担任の先生方には指導をお願いしたい。
- (10) 履歴書作成時の注意事項を Moodle に掲載しているので、そこを読んだ後、履歴書を作成するよう学生に伝える。
- (11) 「学外実習学生心得」は、受入企業へ書面で配布し、その内容を事前に指導している旨、伝えている。したがって心得は、事前に学生に熟読するよう指導する。
- (12) 受入企業が準備するインターンシップの実施内容をよく確認し、ミスマッチが起こらないよう注意する。
- (13) 報告書提出前および、報告会実施前には必ず、企業秘密事項が含まれていないかを、インターンシップ担当の方に、学生が確認する。

3. インターンシップ事前研修

インターンシップへ参加が決定した学生および、参加を希望する学生に対して、下記要領で夏休み前に事前研修を行った。

インターンシップ事前研修会

- 1) 日時：2015年7月15日（水）14：50～15：30
- 2) 場所：視聴覚教室
- 3) 内容：
 - 14：50 研修会に参加するにあたって（インターンシップ担当教員）
 - 14：55 諸注意（教務主事）
 - 15：00 ガイダンス（インターンシップ担当教員）
 - 15：30 質疑・応答
 - 15：40 終了
- 4) 配布物：なし

上記3)の内容を以下にまとめる。

<研修会に参加するにあたって>

インターンシップは、進路を決める重要なイベントの一つである。重要な話がたくさんあるので、聞き漏らしの無いように、集中して話を聞くこと。

<諸注意>

来年度受験する入社試験のプレ試験であり、大学生と競って参加を勝ち取ってくる意気込みで申し込む。将来の進路に対する目的が明らかではない人も、それをつかんできて欲しい。企業は採用の目で学生を見ている。学生をランキングしているかも知れない。学校での常識は甘い。大人としての振る舞いを見られている。

<ガイダンス>

- ① 知的財産を守る
- ② 平成26年度企業アンケートの紹介
- ③ インターンシップ実施までにやるべき事
- ④ 参加時の持ち物
- ⑤ インターンシップ参加までの受入機関との連絡における注意事項
- ⑥ インターンシップ参加時の注意事項
- ⑦ ビジネスマナー、挨拶の仕方
- ⑧ その他の心構え

4. インターンシップ受入機関からのアンケート集計結果

平成 27 年 10 月、本校インターンシップを受け入れて下さった機関に対し、下記のアンケートをお願いした。なお、このアンケートは平成 18 年から 9 年間、同一内容で実施しており、その 9 年分の集計結果を図 2 に示す。

沼津高専のインターンシップに関するアンケート回答用紙

貴社名 _____ 所属部署名 _____

記入者名 _____ E-mail _____

質問 1. 記入者の方は、インターンシップにはどのように関わりましたか？

→人事課系（主に手続きや企画を担当）、現場系（主に学生の直接指導を担当）

（5 択）

質問 2. 本校から参加した学生は、実習に積極的でしたか？（複数名参加の場合は平均値）

→非常に積極的、積極的、普通、消極的、非常に消極的

質問 3. 本校から参加した学生の能力は、高いと感じましたか？

→非常に高い、高い、普通、低い、非常に低い

質問 4. もし来年度も、本校の学生が御社を希望した場合、受け入れて頂けますか？

→是非募集したい、希望があれば、検討したい、難しい、遠慮したい

質問 5. 学校側の、インターンシップに関する対応はどう感じますか？

→非常に丁寧、まあ満足、必要最小限、不十分、大いに検討改善を希望

質問 6. インターンシップの企業としてのメリットは感じますか？

→大いにある、多少ある、学生による、あまりない、全くない

（以下文章形式）

質問 7. 今後、インターンシップに参加する学生に伝えたい事があれば、お書き下さい。

質問 8. インターンシップ実施に関して、ご要望・ご質問がございましたらお書き下さい。

質問 9. その他何かございましたら、ご自由にお書き下さい。

ご協力いただきありがとうございます。

お手数ですが、E-mail または、FAX にてご返送いただけると幸いです。

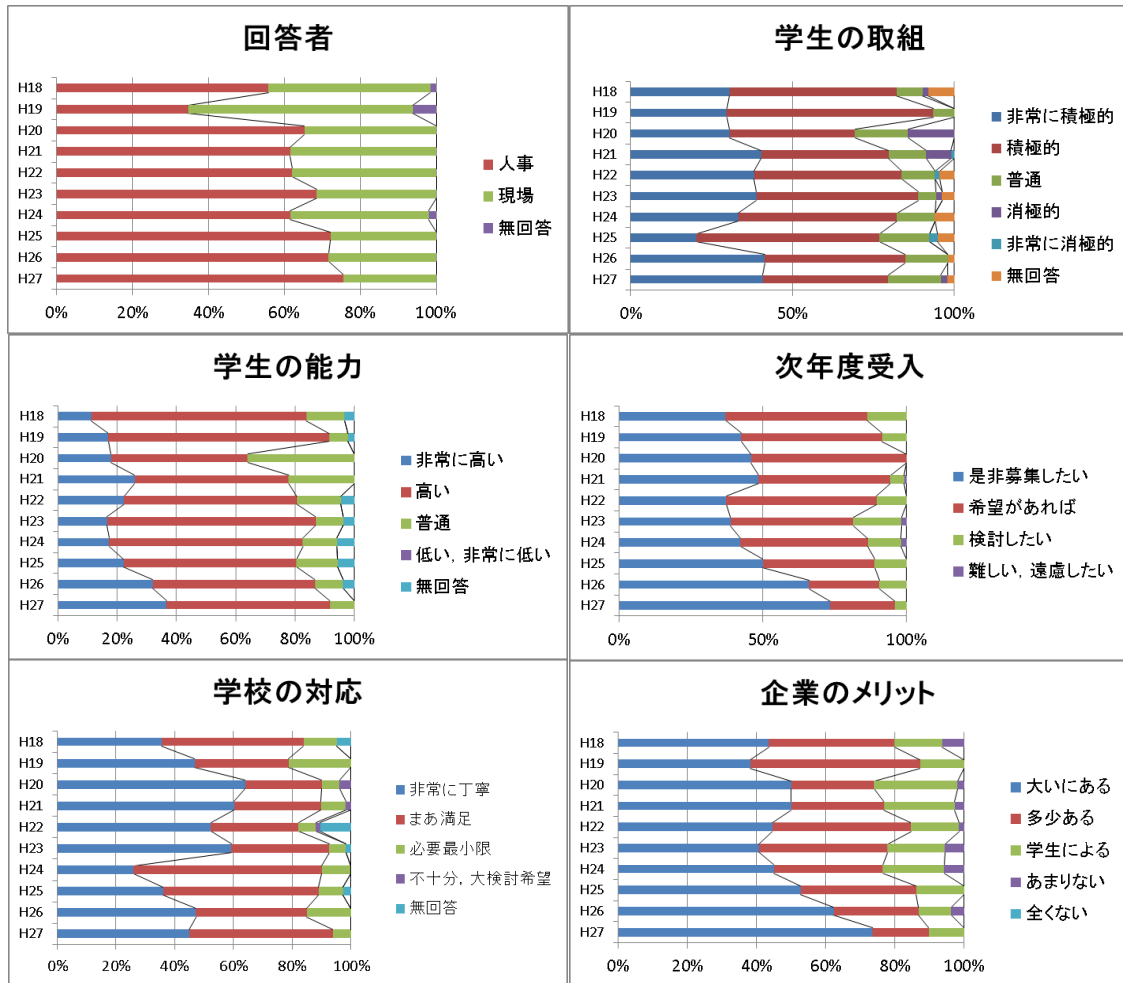


図 2 受入機関のアンケート集計結果

これらのデータより分ることを以下に述べる。

- (1) 人事系のアンケートの回答者が増加傾向にあり、今年度は8割近くに上った。インターンシップのWebエントリーも年々増えてきており、多くの企業においてインターンシップは、ルーチン化されてきたと思われる。
- (2) 少なくとも平成24年までは、学生の取組みと学生の能力とがほぼ連動していると考えていたが、ここ3年の様子を見ると、必ずしも連動はしていない。今年度は、学生の能力は高く評価していただき、「非常に高い」が過去最高となったものの、取組みに対する評価は若干低下した。企業側の、学生に対する期待が高まったことによる結果とも思えるが、とにかく参加したという学生側の安易な気持ちがあったとも読み取れる。参加学生への事前の指導を強化しなければならない。
- (3) 次年度受入は、「是非募集したい」との回答がうなぎ登りであり、こちらは企業のメリットとの連動が見られる。ありがたい事である。この状況をうまく活用し、学生の進路決定に役立てたい。
- (4) 学校の対応は、おおむね満足していただいているようである。引き続き丁寧な対応に心掛けていきたい。

5. 記述式質問 7, 8, 9 のまとめ

記述式の質問項目には、たくさんの企業の方々からご指摘、コメント、感想などをいただいた。それらをまとめ、件数の多い順に並べたものを以下に示す。文頭の数字は回答件数である。なお、その質問 9 のその他などに記載されていても、その内容に応じて、該当する質問に対する回答としてカウントした。また、アンケートの趣旨に関係のないものは割愛させていただいた。

質問 7. インターンシップに参加する学生に伝えたいことは？

- 06. 目的、動機をしっかりとって参加して欲しいです。
- 05. 指示されたことをこなすだけでなく、自主的、積極的に行動することを心掛けてください。
- 04. 参加企業についても事前に可能な限り調べて参加していただきたい。
- 02. 他高専の学生との交流を楽しんで欲しい。
- 01. 何か聞きたいことがあるときには、自分の考えをしっかりと伝えられる様、心掛けてください。
- 01. 少しでも疑問に感じたことがあれば、積極的に質問し、答えだけでなく、その根拠などが理解できるまで聞いてください。
- 01. あまり硬くならず気軽に参加してもらいたい。
- 01. 現役の学生さんと触れ合う機会が持てたことで職場の活性にもつながりました。
- 01. 学校で習っている事と実務のギャップを知る事が出来る良い機会なので積極的に参加して欲しい。
- 01. 就職活動時、弊社を就職先候補にあげていただき、採用試験にエントリーしていただければ幸いです。
- 01. 日頃から色々な視点で気付きを見付ける意識を持つよう心掛けてください。

質問 8. インターンシップ実施に関して、要望・質問は？

- 02. インターンシップ説明会等ございましたら、担当の理解が深まると感じております。ご検討いただければ幸いです。
- 01. 個人のメモ書きであっても企業名は「A 社」「B 社」等のように暗号化して頂きたいです。
- 01. 学校指定の実習報告書や修了証明書がある場合は、あらかじめ人事部までご郵送頂ければ幸いです。
- 01. インターンシップ報告会があれば他社事例も参考になるので見学させて頂きたいと思います。
- 01. 人事担当へも報告し、採用に結びつくよう働きかけていきたいと思いますので引き続き、よろしくお願いいたします。
- 01. 夏休み（休暇日程）や学事スケジュールがわかれば教示いただきたく存じます。

01. 学生が何に重点を置いてどのような狙いで来るかを明確にしていただけるとそれを考慮した受け入れができます。
01. 実施期間を一週間にするか、二週間にするか迷っております。また、訪問させていただいた際にご相談させていただきます。
01. インターンシップに参加される学生さんの（プログラミング経験等の）能力を事前に当方が把握できる手だてがあると、より充実したインターンシップになると思われれます。
01. 5日間という短い実習期間内のため、学生さんが意図していたもの、企業側が提供出来たものが成果として得られたか一部懸念が残ります。
01. 学生様がインターンシップ先を決められる前に一度貴校へ直接お伺いし、弊社インターンシップについてご説明させて頂く機会を頂けますと幸いです。
01. 「インターンシップの目的」を学生さん一人一人が理解・納得できるよう事前の動機付けに注力いただければ、より良いかと思えます。
01. 現在夏休み期間に 5 日間実施しておりますが、例えば夏に 3 日、冬に 2 日、合わせて 5 日間のような分割開催でも単位認定はされるのでしょうか？また現実的にどうでしょうか？
01. 応募者が増えていますので是非早い時期に申込みください。

質問 9. その他なにかありましたら.

01. 少々辛口になりますが、今年参加の学生さんは他の参加者に比し、積極性が見られず、実力がわからぬまま終わってしまった感がありましたので、「消極的」という評価にしました。
01. 楽しい素敵な経験をさせてもらいました。私もたくさんの知見を得られました。
01. 就職を希望する方と、進学を希望される方は多少カリキュラムが違っていても良いかとも思うので、その区分が事前にわかると良いかもしれないと思っております。こちらは今後の弊社の課題でもあります。
01. 即戦力として期待できる高専卒の学生は企業（製造業）のニーズが高いので今後もよろしくお願い致します。
01. 実習生からお礼のメールをいただき、貴校の学生指導の実績が反映されている事に感心しました。
01. 毎年多数のご応募をいただき感謝申し上げます。参加の可否についてはエントリーシートをもとに判断している状況ですが複数名希望者がいらっしゃる場合には学内で順位（参加に対する本気度など）をつけていただけると幸いです。

以上のアンケートにおける記述内容に対し、以下に、必要と感じた回答・コメントを記載する。

1) 目的や動機に関する指導について

本報告書の8に示したように、本校3年生全員に対して「インターンシップ説明会」を3年次の1月に実施しており、インターンシップ参加事例を交えながら、目的や動機を持って参加することの重要性を伝えている。また、夏休み前のインターンシップ開始直前にも、参加者全員を集めて事前研修会、各学科において担任教員からの説明会を実施しており、それらの説明会においても、積極性を持って参加するよう指導している。さらに参加学生には、受入企業や参加目的などについての事前レポートを提出させている。

2) インターンシップ説明会について

受入企業の方に本校に来ていただき、説明会を実施することは計画や検討していない。したがって企業の方には、実施内容が具体的に理解できるよう募集要項にその詳細を記載していただくか、またはインターンシップ担当教員を訪問し、お話しいただくようお願いしたい。どちらにしても、それらの情報を学生が閲覧できるシステムを構築済である。

3) 実施時期について

報告書の作成や報告会の実施、評価の集計などの関係があるで、実施時期は可能な限り、本校の夏季休業中をお願いしたい。

4) 応募者について

1つの企業に対し複数名の応募者が出ることもあるが、原則として本校では順位付けは行っていない。その理由は多くの場合、同一学科からではなく異なる学科からの応募であり、指導教員が異なるために、それぞれの学生を同一基準で評価することが困難だからである。ご理解いただきたい。

6. インターンシップ参加学生からのアンケート集計結果

平成 27 年 10 月、インターンシップに参加した本校学生に対し、下記のアンケートを実施した。参加学生に対するアンケートは、平成 18 年から 9 年間にわたり取ってきた。その目的は、学生の意識調査および参加の実体を把握し、次年度実施時の参考とするためである。

なお、以下に示すアンケート項目は、平成 22 年度に、それ以前のアンケートの質問項目を大幅に絞り込み、学生が答えやすく、かつ次年度参加学生に参考となる内容に見直したものである。よって図 3 には、ここ 5 年間にわたる集計結果を示す。通勤方法については、公共交通機関を使用することを原則としているので、今年度よりバイクは選択項目から除外した。なお、満足度のみ 9 年間を通して調査してきたので、合わせて示した。

平成 22 年度より実施したインターンシップ学生用アンケート（集計項目）

- (1) 期間中の宿泊場所
①自宅、②下宿、③社員寮、④ホテル、⑤その他
- (2) 通勤方法
①徒歩、②自転車、③電車・バス
- (3) 通勤時間
①30分以内、②1時間以内、③90分以内、④それ以上
- (4) 主な実施内容
①見学、②研修、③実技、④その他
- (5) 受入企業でのまとめ
①プレゼン、②報告書、③面談、④なし
- (6) 参加した主な目的
①単位取得、②能力向上、③就労体験、④適性探索、⑤その他
- (7) 不足していたと感じる事前準備
①安全・知的財産、②企業研究、③能力・姿勢、⑤マナー、⑥プレゼン能力、
⑦技能、⑧その他、⑨不要
- (8) 満足度
①非常に有意義、②概ね有意義、③あまり意義なし、④全く意義なし
- (9) 成果
①力が向上、②就労体験できた、③適性が分かった、④その他

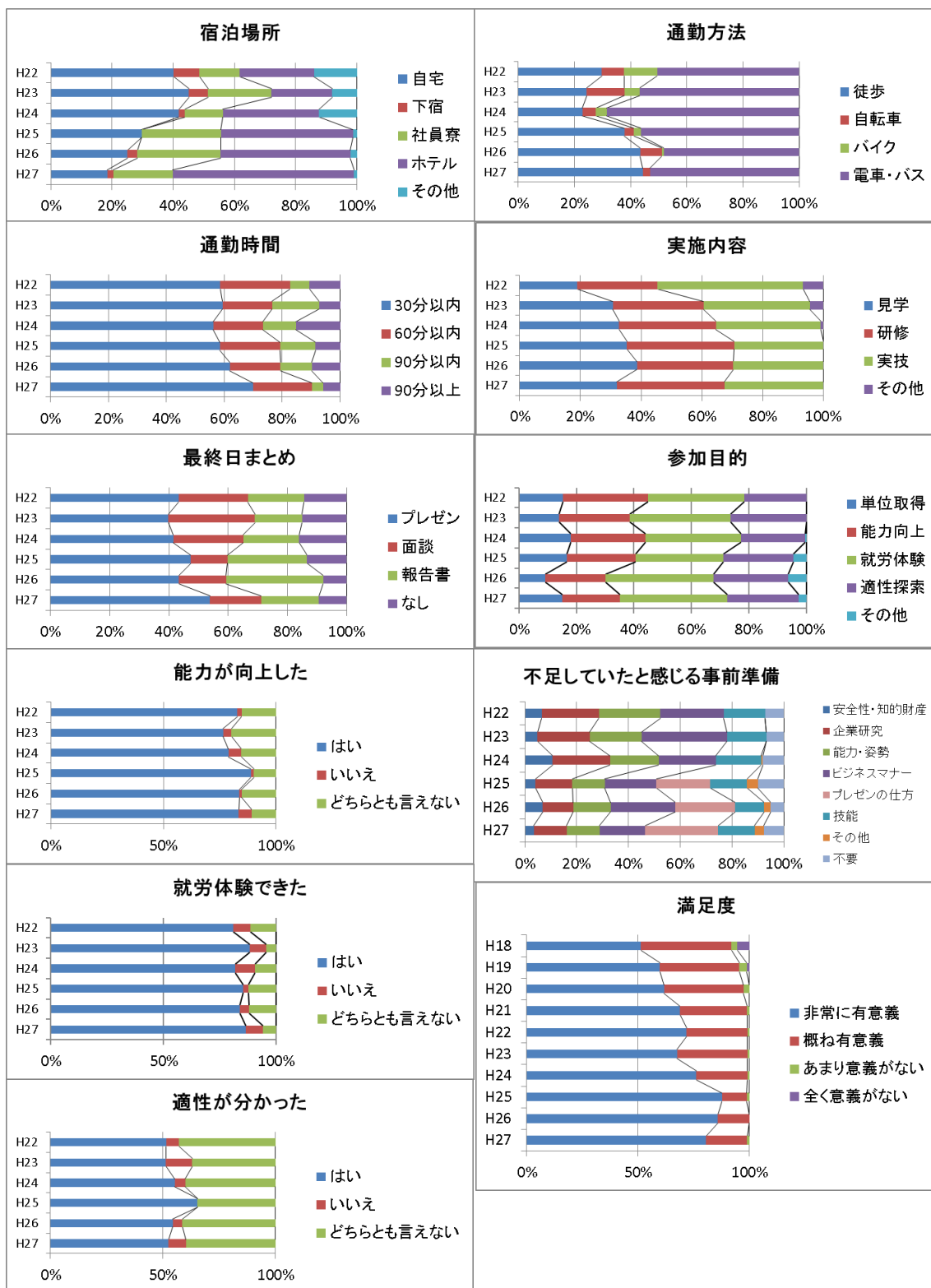


図3 参加学生のアンケート集計結果

(1) 宿泊場所・通勤方法・通勤時間

宿泊場所は今年度、自宅の割合が減少し、ホテルが大幅に増加した。通勤時間は30分以内が増加し、通勤方法は徒歩や電車・バスが大半を占める。すなわち、ホテルの宿泊を斡旋し、実施する企業が増加したと考えられる。

(2) 実施内容

昨年度まで、見学が増加傾向にあったが、今年度は減少に転じ、実技が増加した。企業側が、学生の質を評価し、採用に結びつけようとする動きのようにも思える。今後はより一層、学生に目的意識を強く持って参加するよう指導していきたい。

(3) 最終日のまとめ

プレゼンを実施する企業が増加し、半数を超えた。プレゼン能力は、企業に就職するとすぐに求められる能力の一つである。上記(2)の実施内容と同様に、企業が学生のコミュニケーション能力を評価し、採用時の資料とする可能性もある。事前教育として、プレゼン能力の向上を行いたい。

(4) 参加目的

今年度、受入企業から、学生の参加姿勢が「消極的」との評価が見られた。単位取得のためにインターンシップに参加し、不合格単位の穴埋めをする学生が、毎年若干名いる状況を改善するためには、受入企業から「消極的」との評価がなされた場合に、単位を認めないくらいの厳しい指導が必要である。次年度に向けて検討したい。

(5) 不足していたと感じる事前準備

平成25年度より、「プレゼンの仕方」という項目を追加した。その占める割合は3年連続して増加している。上記(3)と連動しているのは間違いなく、来年度4年生の担任教員に、学生の指導を依頼する。

(6) 成果

「能力が向上した」、「就労体験できた」と答えた学生の割合は、ここ3年で8割を維持している。受入企業における、学生に対する熱心なご指導の成果であろう。継続して学生の意識向上に努めたい。

(7) 満足度

「非常に有意義だった」と答えた学生の割合が、ここ2年間減少傾向にあるのが気になる。受け身で臨めば、満足度は低下する。企業におけるインターンシップの認知度が低かった10年前と比較して、企業では相当な時間をかけて準備をし、学生を受け入れているはずである。就職するならインターンシップに参加するのは当たり前という時代になったが、それ故に、企業が学生を見る目は確実に厳しくなったと思われる。学生には、よく準備し、成果を自ら獲得できるよう指導したい。

7. インターンシップの受入期間および実施時期

図4・図5にそれぞれ、インターンシップの受け入れ期間および、実際に実施された時期を示す。うすい緑色・青色が企業、濃い緑色・青色が大学を表す。近年、高専も徐々に大学に合わせたセメスター制へ移行し、8月の盆休みから9月下旬まで夏季休業とするところが増えた。図4より、企業はそれに対応する受け入れ期間を準備していることが分かる。また図5より、沼津高専においても、およそ3分の1程度は9月に入ってからの実施であることが分かる。

平成28年度に沼津高専では、気温が高くなる7～8月に夏季休業とする従来型へ戻すことがほぼ確定している。したがって9月のインターンシップには参加できず、インターンシップの実施が難しくなるとの懸念がある。しかし図4より、9月だけしか実施しない企業は10社程度であり、それほど影響はないと思われる。

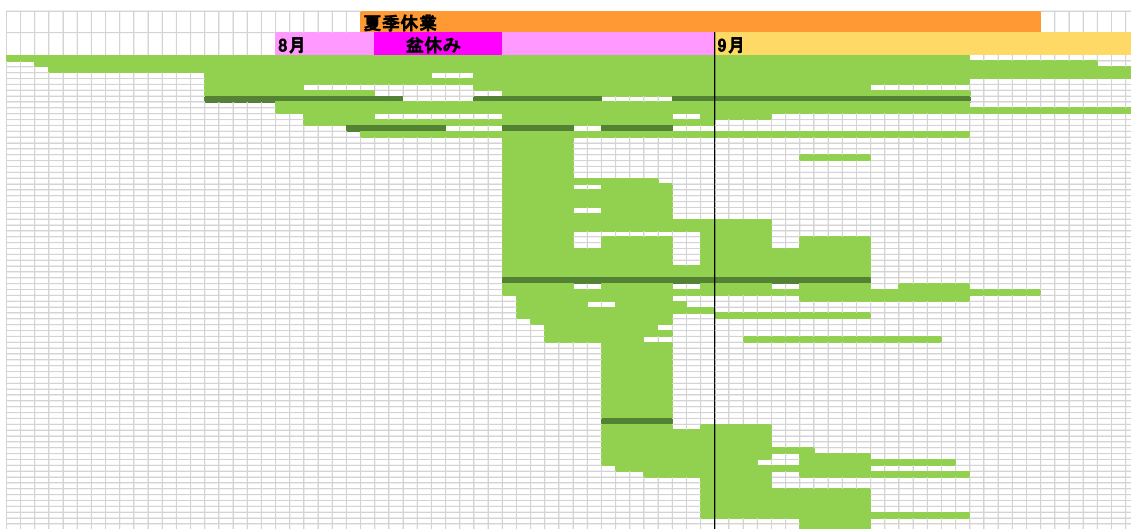


図4 インターンシップ受入期間

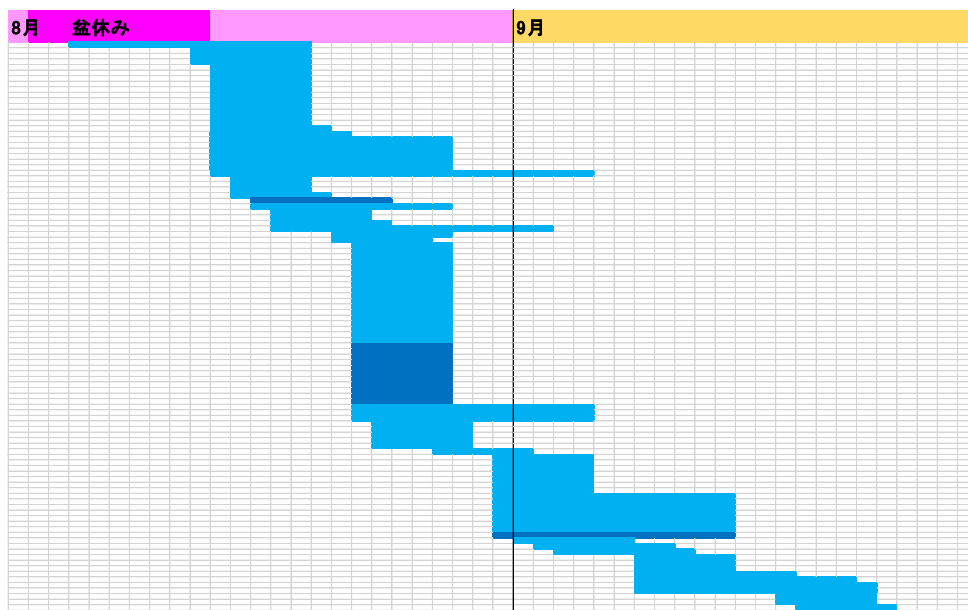


図5 インターンシップ実施時期

8. 3年生対象のインターンシップ説明会

受入機関・参加学生から提出されたアンケートを集計した後、次年度インターンシップに参加する現3年生を対象として、下記の要領でインターンシップ説明会を行った。インターンシップの公募は4月早々に始まるので、アンケート結果等も参考に春休み中に実習先を検討するよう学生に指導した。

インターンシップ説明会

- 1) 日時：2016年1月20日（水）14：45～16：00
- 2) 場所：視聴覚教室
- 3) 内容：
 - 14：45 インターンシップへの心構え（教務主事）
 - 14：50 概要説明（インターンシップ担当教員）
 - 15：10 各学科の実施報告（各学科4年担任教員）
 - 15：45 質疑・応答
- 4) 配布物：なし

上記3)の内容を以下にまとめる。

<インターンシップへの心構え>

インターンシップへの参加は、5年間の高専生活の中で大切なターニングポイントである。自らを会社へPRするチャンスなので、できるだけ多くの学生が参加し、社会で活躍できる技術者になって欲しい。

<概要説明>

ある企業からの指摘、インターンシップとは何か、企業アンケート集計結果、学生アンケート集計結果、インターンシップ関連情報収集方法（Moodleの活用）、受入機関より学生に伝えたいこと、今後のスケジュール

<各学科の実施報告>

機械工学科

H27年度実績、実習事例（3件）、学んだこと（安全教育の重要性、会社の技術力など）、求められること（積極性、挨拶、コミュニケーション能力など）

電気電子工学科

インターンシップの意義、進路希望状況、企業のインターンシップの考え方（業務の一環）、過去7年間の参加人数、H27年度実績・特徴、合格率、企業からの評価、報告会、学生が学んだこと（25件：働くイメージが持てた、会社への

恐怖心が薄れたなど), 4年生より3年生へのアドバイス, 意義(社会・企業・技術・スキルを学ぶことができ, 進路を考えるきっかけとなる)

電子制御工学科

H27年度実績, 実施期間・場所, 報告会, 事例紹介, インターンシップの良さ(他高専の学生との交流, 普段と異なる環境, 1年後の就職先となる)

制御情報工学科

H27年度実績(参加の内訳), 事例紹介(3件:就職だけではなく進学へつながった事例があること), 学生の感想(経験, モチベーション, 適正), 企業からの評価(目的意識, 積極性)

物質工学科

H27年度実績, 事例紹介, 参加学生から3年生へのアドバイス(履歴書作成, メモを取る癖など), 教員からのアドバイス(履歴書の文書作成)

<質疑・応答>

Q1. インターンシップ先はどうやって決めるのか?

A1. 企業のホームページや過去の先輩の報告書を参照したり, 教員に相談したりせよ.

Q2. 履歴書の文章は, 国語の教員などにアドバイスをもらって良いか?

A2. 問題ない. ただし最終的に担任教員の確認を経て提出すること.

Q3. 海外のインターンシップへの参加実績はあるか?(留学生)

A3. ある. ただし, 留学生自身が受入企業を調査し, 書類を準備する必要がある.

Q4. インターンシップの行先(参加の可否)に成績は関係あるか?

A4. 大半は無い. ただし, 成績証明書の提出を求められる場合は, 選考に関係があると思われる.

Q5. 過去に実績が無く, 公募も来ていない企業への参加を希望する場合はどうするのか?

A5. 担任教員に相談し, その企業へ連絡をとって交渉してもらおう.

Q6. 来年度, 夏休みが大きくずれる予定とのことだが, インターンシップに影響はないのか?

A6. 多少あると思われるが, 交渉の余地はあるはず. また, 夏季休業期間の変更を受入企業に事前に伝えておけば, 実施期間をそれに合わせて設定する企業も多いと思われる(全国高専の夏季休業期間は, 7~8月, 8~9月の2パターンがあり, 企業はそのどちらにも対応できるように, 実施期間を設けていることが多い).

Q7. 学生自身がインターンシップ先を探し, 交渉しても良いか?

A7. 不可. 必ず担任教員を経て申し込むこと.

9. 学生からの意見・感想

学生や教員が、インターンシップの情報を共有するために平成 23 年度に導入された Moodle を活用し、平成 24 年度にインターンシップの情報掲載を開始した。本年度で 4 年目となり、Moodle を利用した情報の取得が、学生の間浸透した。ここでは、学生から寄せられた事後のアンケートの、自由記述欄に記載された内容を紹介する。

[気付き]

- 1) 現状報告の際に、自分の考えたアイデアを頭の中だけでしか把握していなかったため、上手く説明する事ができなかった。頭の中だけでなく、ノートに書き出してしっかりと整理する事が大切だと感じた。
- 2) 仕様を実現するために構想を練ったあと実装に入るが、実力がそこまで追いついていない事がわかった。
- 3) 高専は加工や製図に力を入れているため組立・分解の技量が著しく足りないと思った。
- 4) 多少の実習で工具の使用方法はわかるが、慣れていないためかなり個人差が出てしまう。部活や趣味の差で大きな差がある。
- 5) 各高専で知識の差が出てしまった事が少し困った。他高専の人は習ったことがあるもので私たちが習っていないことがあった。これは各高専に所属している先生の専門分野によるのではないことですが、少し困りました。
- 6) 自分のわからない事をうまく伝える事ができなかった。他の発表者と比べてまだまだで、学ぶところがたくさんあると痛感した。

[学校への要望]

- 1) もっとインターンシップを学生に勧めた方がいい。
- 2) 同級生にはインターンシップに行かなくて後悔している人がいたので、インターンシップが充実した身としては、そのような人ができないようにこれからも工夫して欲しい。
- 3) 受入先の職場の雰囲気、職場の対応がとても良かったので学校の方からこの企業へのインターンシップを勧めてください。企業さんは、インターンシップ受け入れは可能な限り受け入れてくれるそうなので、是非よろしく願いいたします。
- 4) プレゼンの仕方などを事前に講義などで説明していただけたら良かったなと思います。
- 5) 学んだ物事を発表する機会をもっと増やして欲しい。
- 6) 実習を 2 年 3 年だけでなく、4 年 5 年でも行ってほしい。
- 7) 企業の報告会では手書きでプレゼンをやったので、学校でも同じように手書き

のスライドで発表したい。

[感想・成長]

- 1) この企業に就職したいと強く思いました。
- 2) インターンシップに行く前は大学編入も少し考えていましたが、インターンシップを終えて就職したいという気持ちが強くなりました。
- 3) インターンのおかげで視野が広がった。
- 4) 普段から目標を持って生活して行きたい。
- 5) インターンシップに行くことで、より将来のビジョンが明確にできたと考えています。
- 6) インターンシップを機に、自分が将来どんなことをやりたいか、じっくり考えてみたいと思う。
- 7) インターンシップに参加して自分が成長できたのを実感しています。本当に参加して良かったです。
- 8) これで単位をもらうのが申し訳ないくらい自分のためになった。得ることが多すぎて単位はいらないとさえ思った。
- 9) とても有意義だった。第一希望の企業で研修できて本当に良かった。自分のやりたい事がはっきりした。
- 10) 最初はインターンシップへの参加は嫌々だったけれど、今は参加して良かったと思います。
- 11) 学校では CAD を勉強する機会が少ないので、今回の実習はとても有意義なものとなりました。
- 12) とても貴重な経験ができた。
- 13) 1次産業から3次産業まで幅広く体験できてよかった。
- 14) 学校では学べない現場での仕事内容を見学できたので良かった。
- 15) 他高専の学生と触れ合うめったにない経験ができました。紹介していただきありがとうございました。
- 16) まさに新人研修といった感じで、他の企業とは一風変わった体験ができたと思うので、多くの学生に行ってもらいたい。
- 17) インターンシップには出来る限り参加したほうが良いと感じた。
- 18) インターンシップは卒業して社会に出る前に必ず参加しておくべきだと感じました。

10. インターンシップの総括

約 10 年前、インターンシップがまだあまり盛んに行われていなかった頃は、公募の数も少なく、担任教員が相当数の企業に電話をかけて、インターンシップの受け入れをお願いしていた。またその頃は、企業におけるインターンシップの認知度が低く、企業へ電話をかけた際にインターンシップの意味を説明しなければならないことも多かった。さらに、企業から受け入れ可能との回答をいただいた後も、高専での教育レベルを確認され、実施内容の相談を何度も受けた。したがって実施内容は、その会社に就職して必要となる実技を伴う事が多かった。

ところが近年、インターンシップの申込みを Web から行う企業が増え、システムティックに処理されるようになった。例えば受入企業の多くは、遠方からの参加者を想定して宿泊施設を準備するようになった。また、実施内容は見学や研修が増加し、準備や実施に多くの手間を要する実技は、平成 25 年まで明らかに減少傾向であった。

しかしその傾向は今年度、急変したように感じる。採用のための選考試験開始が 8 月にずれ込み、短期決戦型になったことの影響を受けてか、インターンシップを公募する企業が増加し、景気が低迷した時期と比較すると 2 倍以上の数となった。従来は、採用のための会社説明会が 12 月から実施でき、翌年の 4 月から採用試験がなされていた。その時と比べて、採用に費やすことができる時間が減少した今年度はインターンシップを、人材確保のための手段として企業が活用していたという印象が強い。来年度、就職解禁が 6 月に変更になるとはいえ、会社説明会の開始が 3 月からという今年度と変わらない状況下においては、インターンシップを採用に結びつけようとする企業の動きは、同程度かまたはより活発になると予想される。したがって特に就職を考えている学生には、自らの進路を具体的に考えたうえで、インターンシップに臨むよう指導することが必要であるといえる。

学生の、学力の低下が社会問題になって久しいが、インターンシップの実施状況や企業からの評価を見る限り、企業における高専生の評価は高く、今のところ陰りは見られない。しかし教育現場に目を向ければ、明らかに 10 年前に比べて教育にかかる手間は増加している。卒業していく学生の質を保証し、企業からの高評価を維持するためには、教員の、教育に対する力量の向上も重要である。近年、高専に対する外部評価が厳しくなされ、教員の質が高く求められるようになった。高専教員は日々自己研鑽し、優れた人材を育てる努力を惜しんではならない。

なお、本校のインターンシップは、下記に示す教職員の多大なる尽力により実施された。ここに感謝の意を表す。

インターンシップ関係教職員

物質工学科 蓮實 文彦（教務主事）

機械工学科 西田 友久（担任）

電気電子工学科 大津 孝佳（担任）

電子制御工学科 牛丸 真司（担任）

制御情報工学科 山崎 悟史（担任）

物質工学科 青山 陽子（担任）

教務係長 藤本 和也

教務係 佐藤 美紀

参考までに、平成 28 年度インターンシップスケジュール案および、学生便覧に掲載されている学外実習学生心得を以下に掲載して本報告を終わる。

沼津工業高等専門学校 機械工学科
インターンシップ代表
三谷祐一朗

付録 1. 平成 28 年度インターンシップスケジュール (予定)

4 月

- 4 年新担任教員との新年度インターンシップ事前打合せ、担当引継ぎ
- インターンシップ募集案内掲載開始 (学内 Web)
- 学科毎のインターンシップガイダンス
- 行き先希望調査

5～6 月

- 担任教員による企業への交渉
- 必要書類 (履歴書含む) 作成・企業への応募

7 月

- 事前レポート作成
- インターンシップ事前研修会 (全体・クラス毎)

7～8 月

- インターンシップ実施 (7 月下旬～8 月下旬が夏期休業 : 予定)
- 教員による視察

9 月

- 受入機関からの評価
- 参加学生のインターンシップ報告書提出・報告会 (学科毎)
- 参加学生に対するアンケート調査
- 受入機関への礼状送付・アンケート調査

1 月

- 3 年生対象インターンシップ説明会 (概要・データ紹介・反省・注意等)

2 月

- インターンシップ報告書作成・受入機関への通知
- 担任教員によるインターンシップの評価

3 月

- 単位認定

付録 2. 学外実習生学生心得

学外実習（以下「実習」という）は企業等において実際の工業技術を体得するため、専門課程の一環として履修するものであり、実習に従事する学生はこの心得を守らなければならない。

- 1) 学生は、この心得のほか必要な事項、細目について、実習開始前に学外実習指導教員の指示を受けること
- 2) 学生は、実習先の監督者の指導を受けるとともに、次に掲げる事項を守り、実習の目的を十分に達成するよう心がけること。
 - (1) 規律
 - ① 出退勤時間、休憩時間を守ること、無断で欠勤、遅刻、早退等は絶対にしないこと。
 - ② 社内規律、作業内規等の規則に従うこと。
 - ③ 学生として良識ある行動をとり、礼節を守ること。
 - ④ その他社内秩序を乱さないよう留意すること。
 - (2) 社内機密保持
 - ① 無断で設備、製品、図面等社内の写真撮影をしないこと。
 - ② 無断で指定以外の場所に立ち入らないこと。
 - ③ 許可なく、製品、研究、文献、ソフトウェア、図面、談話等を社外に漏らさないこと。
 - ④ 教員へ提出する報告には、企業秘密事項を含めないこと。
 - (3) 安全保持
 - ① 監督者の指示・説明に従い、独断で作業をしないこと。
 - ② 実習先の作業心得、安全心得をよく守り、細心の注意を払い、事故を起こさないよう心がけること。
 - ③ 万一、事故又は異常事態が生じた場合は、直ちに、監督者に報告するとともに、すみやかに指導教員に連絡すること。
 - (4) 作業態度
 - ① 監督者の指示に従い、独自の行動はとらないこと。
 - ② 実習先の社員等に対しては、努めて謙虚な態度で接すること。
 - ③ 必要以外の設備等には手を触れたりしないこと。
 - ④ 実習期間中は、毎日、作業の終了を監督者に報告すること。
 - (5) 用具の使用
 - ① 無断で社内の用具を使用しないこと。また、使用後は必ず元の場所に返しておくこと。
 - ② 許可なく物品の搬入・搬出をしないこと。
- 3) 学生は、実習期間中、常に指導教員と連絡を保つとともに、実習内容の変更があった場合は、速やかに指導教員に報告すること。
- 4) 学生は、実習終了後、実習報告書を実習先に提出するとともに、すみやかに経過を指導教員に報告すること。またその際、企業秘密事項が含まれていないかを確認すること。

学生便覧（平成 27 年度 pp.70～72）より抜粋

インターンシップ窓口
沼津工業高等専門学校 学生課 教務係
email : kyoumu@numazu-ct.ac.jp
電話 : 055-926-5733
FAX : 055-926-5882
〒410-8501 沼津市大岡 3600